

高温登熟条件で栽培した本県育成系統の玄米品質

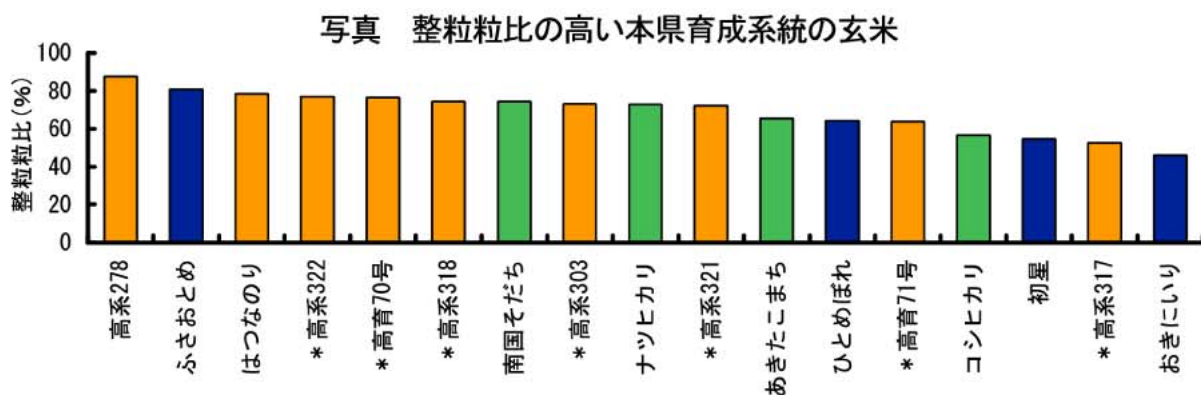


図1 高知県育成系統の整粒粒比
穀粒判別器(サタケRGQ110A)で測定。登熟温度は25.9～27.0℃。青は高知県高温登熟性基準品種、緑は高知県奨励品種(あきたこまちは高温登熟性基準品種を兼ねる)。*印は平成20年度の奨励品種決定調査へ供試している系統。

近年、高知県の早期水稻では、登熟期間の高温に起因する玄米品質低下が問題となっています。そこで、高温登熟性に優れた品種を選抜するために、本県育成の新旧品種・系統について、登熟期間を高温条件とした場合の玄米外観品質(整粒粒比)を調査しました。

その結果、供試品種・系統の整粒粒比には大きな差が認められました(図1)。また、高系278、‘はつなのり’、高系322、高育70号、高系318では、現在普及している奨励品種より

も高い整粒粒比を示し、その値は、高温登熟性が優れると評価される‘ふさおとめ’とほぼ同等でした(図1、写真)。

高い整粒粒比を示した品種・系統のうち、古い品種・系統である高系278、‘はつなのり’は交配母本として活用するとともに、高系322、高育70号および高系318は、引き続き新品種候補として特性評価を進めていきます。
(水田作物担当 高田 聖 088-863-4916)